

# あの人このひと

今回は、黒岩お囃子保存会会長 梅田 實美 さんに登場していただきました。

## 『祭りお囃子を後世に残したい』

黒岩お囃子保存会会長

梅田 實美



2年ほど前ですが、私が坂祝町氏子総代会長に就任させて頂き、黒岩神社氏子総代を担った時の春大祭や新嘗祭などでの祭りなど、お囃子はというと決まってカセットテープで録音したものでした。古老の方や氏子総代経験者らからは他地区のように、祭りお囃子がテープではなく、笛や和太鼓によるお囃子が出来ないものと周囲に熱望されていたのです。それが切欠となり、OBら約10名が話し合っただけで、黒岩神社でも笛や和太鼓などのお囃子をやってみようという事になりました。

幸いにして黒岩在住の方で、篠笛などを指導していらっしゃる七原典子先生が、笛や和太鼓を教えてくださいることになりました。昨年の10月から毎週火曜日の夕方から、公民館に於いて老若男女が集まるようになって、お囃子の稽古へ参加したいと輪が広がり始めたのです。今では会員も25名程となり、最年少では小学2年生から70歳後半の方たちが、バチや笛を吹く手順を絵に描いた楽譜を見ながら稽古に参加されています。坂祝町内のお囃子保存会では草分け的存在の勝山まつり保存会の指導も受けながら、黒岩地区の皆さんが稽古に明け暮れております。私が思うには、お囃子と言うのは祭りを盛り上げる大切な脇役でもあり、脇役が居てからこそ祭りそのものの伝統が守られるものであると確信しています。70年ぶりとなる祭お囃子が復活し、これからは春の大祭や神社の行事は勿論の事、一年間の活動スケジュールを立てて坂祝町そして黒岩地区の活性化と、地域の融和を計りながら積極的な活動を行っていきたいと思います。

